

今月の  
トピックス

## ASCO 発表情報 (本体研究)

大腸がん	JCOG1503C	高島淳生先生	国立がん研究センター中央病院	<a href="#">Abstract LBA3508</a>
脳腫瘍	JCOG1703	齋藤竜太先生	名古屋大学医学部附属病院	<a href="#">Abstract 2001</a>
骨軟部	JCOG1802	遠藤 誠先生	九州大学病院	<a href="#">Abstract 11508</a>
乳がん	JCOG1919E	原 文堅先生	愛知県がんセンター	<a href="#">Abstract 1019</a>

2026 ASCO  
ANNUAL MEETING今月の  
トピックス

## 荒川芳輝先生(脳腫瘍グループ代表者)にご寄稿いただきました

京都大学大学院医学研究科 脳神経外科学の荒川芳輝でございます。

JCOGニュース読者の皆様、そして日頃よりJCOGの多施設共同臨床研究に多大なるご支援・ご協力をいただいております全国の施設研究責任者、ならびに参加施設メンバーの皆様にご挨拶申し上げます。

このたび、国立がん研究センター中央病院脳脊髄腫瘍科 成田善孝先生の後任として、JCOG脳腫瘍グループの代表者を拝命いたしました。

2003年の脳腫瘍グループ設立以来、諸先輩方が確固たる信念のもとに築き上げ、強気に牽引してこられた伝統ある本グループの代表という重責を担うこととなり、大変身の引き締まる思いであります。これまで私は長らくグループ事務局として、また主任研究者として、当グループの運営やプロトコル立案に深く関わってまいりましたが、今後はグループ代表者として、これまでの良き伝統をしっかりと継承しつつ、次代を見据えたさらなる飛躍を目指して全力を尽くす所存です。

脳腫瘍、とりわけ悪性神経膠腫や中枢神経系原発悪性リンパ腫は、極めて予後が厳しいだけでなく、腫瘍そのものや治療介入によって患者さんの認知機能や運動機能など、日々の生活に直結する重要な機能が損なわれる非常に難治性の疾患です。それゆえに、単なる生存期間の延長にとどまらず、いかにしてQOLの維持・向上を両立させるかという視点を持った新たな標準治療の確立が常に求められています。

当グループは設立以来、成人膠芽腫を対象にしたJCOG0911 (INTEGRA study (P-II))、成人転移性脳腫瘍を対象にしたJCOG0504 (OPE+WBRT-OPE+SRS-P3)、中枢神経系原発悪性リンパ腫を対象にしたJCOG1114C (PCNSL-TMZ-P3)など、数々の重要な第III相臨床試験を完遂し、脳腫瘍診療ガイドラインに直結するエビデンスを国内外に向けて発信して参りました。近年でも、初発膠芽腫に対する可及的摘出術とカルムスチン脳内留置用剤・テモゾロミド併用化学放射線療法を検討したJCOG1703 (OPE+WBRT-OPE+SRS-P3)では、2年生存割合54.3%という、過去の試験と比較しても極めて良好な画期的成績を収めることができました。

現在も、私が研究代表者を務め、放射線治療グループとのインターグループ試験として実施した高齢者初発膠芽腫に対するJCOG1910 (AgedGlio-PIII)は、皆様のご協力により予定より早く登録を完了し、2026年のキーオープンを待つ状態にあります。

さらに、手術手技に関するグループ初のランダム化試験であるJCOG2209 (FLAMINGO)、新規薬剤チラブルチニブを用いたJCOG2104 (TIMELY-pII)やJCOG2314 (ReSTART)、そしてメトホルミンを用いたJCOG2412C (MET Study PIII)など、先進的かつ多彩な臨床試験が進行または開始準備中であり、グループとしての活動はかつてないほどの活気を見せています。



脳腫瘍グループ代表者  
荒川芳輝

今後のグループ運営にあたり、私は以下の4つのビジョンを掲げ、皆様と共に強気に推し進めていきたいと考えております。

### 1. 良性腫瘍も含めて新規治療開発とゲノム研究の融合による個別化医療の推進

これからの難治性脳腫瘍治療では、外科手術・放射線・薬物の集学的治療に加え、最新の分子生物学的知見の導入が不可欠です。さらに良性腫瘍に対する標準治療の確立も重要となっています。病理中央診断や網羅的遺伝子解析を基盤とし、WHO分類に完全準拠した精密な臨床試験を展開することで、真に患者さん一人ひとりに最適な治療を届ける個別化医療を実現します。

### 2. 若手研究者の育成と試験立案支援の充実:

JCOGの持続的発展には次世代を担う若手の育成が最重要課題です。当グループでは、若手研究者の育成や新規クリニカルエッセイの検討を目的とした「若手の会」を定期的開催し、活発な議論を行って参りました。今後も若手医師が自由にアイデアを出し合い、シニアメンバーがそれを全力でサポートし、実際のプロトコル立案へと結びつけるインキュベーターとしての機能を一層強化します。

### 3. 患者・市民参画 (Patient and Public Involvement (PPI)) の推進と長期QOL評価の重視:

治療開発の真の恩恵を受けるのは患者さんです。JCOG脳腫瘍グループ患者市民セミナーの開催などを通じ、臨床試験の計画段階から患者さんやご家族の声を反映させるPPIをさらに推進します。また、JCOG1303で取り入れた就業率評価のように、患者さんの長期的なQOLを見据えたエンドポイントを積極的に試験に組み込んでまいります。

### 4. グローバルなエビデンス発信と国際共同研究の推進:

ASCO 2025におけるJCOG1308Cの発表をはじめ、我々の創出するデータは世界から高い注目を集めています。今後は国内にとどまらず、EORTCなど、海外の臨床試験グループとの積極的な交流や国際共同試験も視野に入れ、日本発の標準治療が世界のスタンダードとなるよう、国際的なプレゼンスを高めていきます。

最後になりますが、難治性疾患である脳腫瘍に立ち向かうためには、全国の参加施設の皆様方の熱意と固い結束が何よりも大きな力となります。また、高い質を担保した臨床試験を実施するためには、JCOGデータセンターおよび運営事務局の皆様方の多大なるサポートが不可欠です。患者さんの明るい未来と、次世代の希望となるような新たな標準治療の創出に向けて、グループ一丸となって誠心誠意取り組んでまいります。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻、そして臨床試験への多大なるご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

JCOG脳腫瘍グループ代表者

京都大学大学院医学研究科 脳神経外科学 荒川芳輝

JCOG研究に関わる研究結果やイベント情報など最新情報を発信しますので、ぜひフォローしてくださいね!

X ユーザーネーム: @JCOG\_official URL: [https://x.com/JCOG\\_official/](https://x.com/JCOG_official/)

Facebookページ URL: [https://www.facebook.com/JCOG\\_official](https://www.facebook.com/JCOG_official)

JCOGウェブサイトのトップページからも関連ページへアクセスいただけます。

肺がん外科 JCOG0802S8 上垣内篤先生 広島大学  
 頭頸部がん JCOG1008S4 今村善宣先生 福井大学  
 肺がん内科 JCOG1404A2 神田慎太郎先生 信州大学医学部附属病院  
 肺がん内科 JCOG2401A 伊藤 佑先生 東京大学  
 乳がん JCOG2110A1 古川孝広先生 がん研究会有明病院

[Abstract 8009](#)  
[Abstract 6015](#)  
[Abstract 8649](#)  
[Abstract 8081](#)  
[Abstract TPS1158](#)

## JCOG2506肺がん内科グループ 新規試験

JCOG肺がん内科グループの新たな試験であるJCOG2506「MET遺伝子エクソン14スキッピング変異陽性の未治療進行非小細胞肺癌に対する一次治療としてのMET阻害薬とペムプロリズマブ・プラチナ製剤併用がん薬物療法のランダム化比較第III相試験(DECIDE-MET)」は、現在開始に向けて準備が進められています。本試験の立案・プロトコール作成にあたり、JCOG肺がん内科グループの先生方、JCOGデータセンター・運営事務局、各審査委員会をはじめとする多くの皆様より多大なるご指導とご支援を賜りました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。



研究代表者 後藤 倅 研究事務局 國政 啓

撮影: 植村 朋子さん

本試験は、METエクソン14スキッピング変異(MET変異)を有する未治療進行・再発非小細胞肺癌患者さんを対象として、標準治療であるMETチロシンキナーゼ阻害薬(MET-TKI)群に対し、試験治療である免疫チェックポイント阻害薬(ICI)を中心とした治療群が全生存期間において非劣性を示すかを検証します。

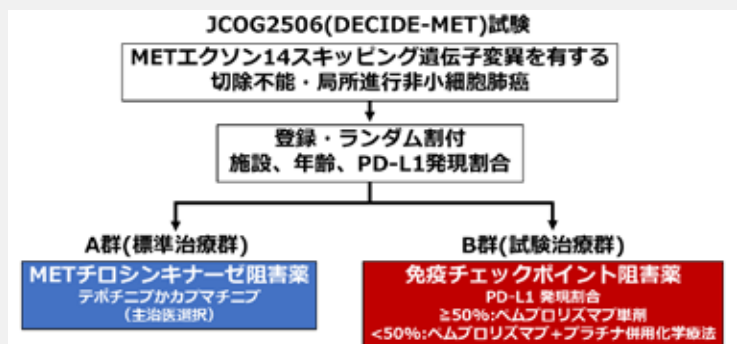
未治療進行・再発非小細胞肺癌に対する全身薬物療法では、まず治療標的となるドライバー遺伝子異常の有無を検索し、それに応じた分子標的薬を導入することが国際的に推奨されています。MET変異もそのような治療標的の一つです。MET変異の頻度は進行非小細胞肺癌全体の約2~4%の希少な対象です。他のドライバー遺伝子異常を有する肺癌が若年者、女性、非喫煙者に比較的多い傾向を示すのに対し、MET変異肺癌は高齢者、男性、喫煙者に多い傾向が報告されています。更に興味深いことに、ICIの代表的なバイオマーカーであるPD-L1発現割合について、MET変異肺癌では約70%が高発現群であるとされており、ICIの有効性が期待される集団でもあります。しかし、これまでMET変異肺癌に対するICIの効果を検証した前向き試験は存在していません。

MET変異肺癌に対する標準治療は、MET-TKIであることが国際的にも概ね認められていますが、いずれも第II相試験の成績に基づいて承認されており、比較試験は存在しません。また、MET-TKIの治療成績は、他の代表的なドライバー遺伝子異常に対する分子標的治療と比べると必ずしも十分とはいえず、浮腫などの有害事象により休薬や減量を要することも少なくありません。そのため、MET変異肺癌に対しては、より高い有効性と、より良好な忍容性を兼ね備えた新たな治療戦略の開発が強く求められています。

このような背景の基に日本、米国、欧州での進行期MET変異肺癌の治療についてのガイドラインはMET-TKIとICIの位置づけについて記載が異なっており、これらの比較試験はMET変異肺癌の治療の最適化、および国際ガイドラインの整合化にも資すると期待されています。

JCOG2506(DECIDE-MET)試験はこうした状況の下、MET変異肺癌の真の標準治療はMET-TKIなのかICIなのかを決定する試験です。本試験は100人のMET変異肺癌患者さんの御協力を頂き、進める予定です。試験の完遂には、参加施設のみならず、患者さんの御協力が必要不可欠です。JCOG2506試験へのご理解とご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

JCOG2506研究代表者 国立がん研究センター中央病院 後藤 倅  
 JCOG2506研究事務局 大阪国際がんセンター 國政 啓



## JCOG研究の論文公表

頭頸部がんグループ JCOG1008S1 横田 知哉 先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42001583/>

Risk factors for aspiration pneumonia related to postoperative chemoradiotherapy for high-risk head and neck cancer: A supplementary analysis of a phase II/III JCOG1008 trial, Oral Oncology, 2026 Apr 18. Online ahead of print.

乳がんグループ JCOG1017S3 田中 希世 先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41989526/>

Differences in drug efficacy and prognosis between primary and metastatic sites for de novo stage IV breast cancer: an exploratory analysis of a phase III trial, JCOG1017, Breast Cancer. 2026 Apr 16. Online ahead of print.

# JCOG研究の論文公表

## 乳がんグループ JCOG 2313デザインペーパー 尾崎 由記範先生

<https://ascopubs.org/doi/full/10.1200/OA-25-00219>

Randomized Phase III Trial for Evaluating the Efficacy of Adjuvant Abemaciclib in Patients With Locoregional Recurrence of Hormone Receptor-Positive, Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Negative Breast Cancer: JCOG2313, AURA Trial, JCO Oncology Advances, 2026 March 31. Online ahead of print.

## 肺がん外科/肺がん内科グループ JCOG1205/1206 鈿持 広知先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42000139/>

Five-year overall survival in JCOG1205/1206: irinotecan or etoposide plus cisplatin for resected high-grade neuroendocrine carcinoma of the lung, Lung Cancer, 2026 Mar 26. Online ahead of print.

## 肝胆膵グループ JCOG1213S1 佐竹 智行先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41992035/>

Role of tumor markers before or during chemotherapy for digestive neuroendocrine carcinomas as an exploratory analysis of JCOG1213, scientific report, 2026 Apr 16. Online ahead of print.

## 肝胆膵グループ JCOG2101Cデザインペーパー 佐野 裕亮先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41968990/>

Randomized phase III trial of gemcitabine plus nab-paclitaxel versus gemcitabine plus S-1 as neoadjuvant chemotherapy for resectable pancreatic cancer in geriatric patients: JCOG2101C (PRESTIGE study), Japanese Journal of Clinical Oncology, 2026 Apr 12. Online ahead of print.

## 担当医別月間登録数



### 肺がん外科グループ(月間登録数:4)

田根慎也先生 / 神戸大学医学部

### 胃がんグループ(月間登録数:2)

柳本喜智先生 / 大阪国際がんセンター

### 食道がんグループ(月間登録数:3)

境井勇氣先生 / 浜松医科大学

### 乳がんグループ(月間登録数:2)

渡邊健一先生 / 国立病院機構北海道がんセンター

### リンパ腫グループ(月間登録数:3)

村上五月先生 / 愛知医科大学病院

### 大腸がんグループ(月間登録数:2)

吉田武史先生 / 久留米大学医学部

金光幸秀先生 / 国立がん研究センター中央病院

塩見明生先生 / 静岡県立静岡がんセンター

### 放射線治療グループ(月間登録数:2)

伊藤 慶先生 / がん・感染症センター都立駒込病院

### 脳腫瘍グループ(月間登録数:2)

木下雅史先生 / 金沢大学医学部

### 肝胆膵グループ(月間登録数:4)

小野嘉大先生 / がん研究会有明病院

工藤雅史先生 / 国立がん研究センター東病院

(担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

# グループごと月間登録数



登録数月次レポート

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	2月	3月	4月	合計
肺がん外科	58	62	60	180
食道がん	22	25	26	73
肝胆膵	18	23	23	64
大腸がん	20	24	16	60
リンパ腫	18	17	23	58
胃がん	16	32	8	56
乳がん	13	12	16	41
脳腫瘍	13	9	5	27
肺がん内科	7	10	9	26
消化器内視鏡	3	14	7	24
放射線治療	7	8	9	24
泌尿器科腫瘍	5	8	5	18
骨軟部腫瘍	4	5	1	10
頭頸部がん	3	5	0	8
皮膚腫瘍	1	2	1	4
婦人科腫瘍	0	0	0	0
合計	208	256	209	673



## JCOGデータセンターより

2026年4月の登録は209例でした

